

高等教育段階の負担軽減 方策

●学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士
医療	看護専門課程	看護学科	○

修業年限	昼夜	課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	
3年	昼	3,030 単位時間/ 99 単位	
		講義	実習
		1,995 単位時間/ 76 単位	1,035 単位時間/ 23 単位

生徒 総定員数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
240人	14人	145人	159人

2019年4月現在

本校の目指すところ

●教育理念

看護は生命の尊厳と人間の尊重を基盤としており、看護を必要とする人々と看護者との関係の上に成り立っている。また、看護とは、あらゆる健康レベルに対応し、その人らしく生きられるよう生活過程を整え、健康問題を解決することである。

この考えに基づき、科学的思考に基づいた看護実践力と保健・医療・福祉全般にわたる広い視野を持ち、社会の変化に対応し、セーフティネット系の医療を担う看護実践者を育成することが本校の目指すところである。

さらに豊かな人間性と探求心を持って自己啓発していく能力や責任感、倫理観が確立するよう支援する。

●本校の目指すところ

「看護」とは、様々な健康の状態にある人に対して、心を傾ける、苦痛を和らげる、心と体を癒す、そして支える、寄り添う、導く、前へ進む勇気を与えることなど、専門的な技術を用いながら、その人がその人らしく生きていけるように生活を整えることです。

そして、看護を必要とする人々（様々な健康の状態にある人々）と看護者との関係は全ての生命の尊厳と、人間一人ひとりを尊重することを基盤に成り立っています。

本校は、専門的な技術や科学的思考に基づいた看護実践能力と、保健・医療・福祉全般にわたる広い視野を持った看護実践者の育成を目指しています。豊かな人間性を持った Professional な看護者になるためには責任感や倫理観、さらに探究心を持ち自己啓発していく能力が必要です。また、看護を必要とするその人の生活を整えるには社会的基盤である生活能力が備わっていないとではなりません。

本校では Professional な看護者になるという目標達成に向けて、3年間やり遂げることのできる人を育成することを目指しています。

- ① Professional な看護者として仕事に就きたい人
- ② 社会的基盤である生活能力が備わっている人
- ③ 自分だけでなく、他者を尊重し Communicate できる人
- ④ Professional に向けて、自ら考え学び続けることのできる人
- ⑤ 困難を乗り越え、忍耐強く目標に向かっていける人

●教育目的・目標

教育目的

看護師として必要な知識及び技術を教授し、独立行政法人国立病院機構及び社会に貢献し得る有能な人材を育成することを目的とする。

教育目標

1. 人間を身体的・精神的・社会的に統一された存在として理解し、尊重する姿勢を身につける。
2. 対象の健康状態に応じた看護を科学的に実践する能力を身につける。
3. 人間の多様な価値観を理解し、思いやりのある心豊かな人間性を養う。
4. 専門職として自己啓発していく能力を養い、生涯にわたり看護を探究する姿勢を身につける。
5. 社会人としての一般教養を身につけ、対人関係を発展させる能力を養う。
6. 保健・医療・福祉を総合的に理解し、看護者としての役割を認識すると共にそれを果たす基礎的能力を身につける。

●期待する卒業生像

当校が期待する卒業生像

1. 看護は生命の尊厳と人間尊重を基盤として成り立つことを理解し、看護観を形成する。
2. 対象の健康や場に応じて、科学的根拠に基づいた問題解決方法がわかる。
3. 豊かな感性を持ち、人間を幅広く理解できる。
4. 自己を理解し、他者を尊重した上で人間関係を深めることができる。
5. 常に探求心を持って看護を追求する姿勢がある。
6. 社会の動きに関心を持ち、自ら継続的に学習できる。
7. 物事を主体的に考え、自立して行動できる。
8. 自己の感情をコントロールし、他者を理解するための洞察力を養うことによって人間関係を形成することができる。
9. 保健医療の場に生じる保健・医療・福祉に関する問題の対処方法を学び、必要に応じ調整的な役割を担う能力を身につけている。

学校評価

●外部評価

1. 外部人材の意見を反映することができる組織

1)学校運営会議

名称	学校運営会議
役割	<p>学校運営の円滑化及び適正化を図るために、学則に基づき学校運営会議を設置している。また、会議に多様な意見を反映させるために複数の外部委員を任命し、外部委員の自らの経験を活かして社会や将来の医療ニーズを踏まえた意見を学校運営会議に反映させることで、更なる学校運営の適正化が図られると期待される。</p> <p>〈学校運営会議の審議事項〉</p> <ol style="list-style-type: none">一 学校の規定の制定改廃二 学校の予算の執行計画三 教育課程の編成に関する事項四 各年度の教育計画に関する事項五 学校の講師・実習施設の選定に関する事項六 学生募集及び入学に関する事項七 学生の単位・卒業認定に関する事項八 学生の休学、復学、退学に関する事項九 転入学者の既習単位等の認定に関する事項十 学生の就職に関する事項十一 学校運営の評価に関する事項十二 学校の施設設備に関する事項十三 その他学校の運営に関し重要と認める事項

2. 外部人材である構成員

前職又は現職	任期	備考（学校と関連する経歴等）
母体病院 副院長	2019.4.1～ 2020.3.31	小児看護方法論Ⅰの講師として講義を実施
母体病院 薬剤部長	2019.4.1～ 2020.3.31	特になし

●学校関係者評価

1. 自己評価

教員による、自己評価は「看護師等養成所の教育活動等に関する自己評価指針」に基づき作成した学校評価表に示されたカテゴリーⅠ～Ⅷ毎に行い、結果について、前年度と比較分析する。

2. 学生による学校評価

教育方針・カリキュラムの各分野の教育内容、実習の教育内容、授業、専門的な知識の習得、専門的な技術の習得、シラバスと授業内容の一致、教材・図書環境、個別指導・進路指導等の学生サポート体制、健康管理体制、課外活動、カリキュラム評価の機会、学校職員、満足感等の全16項目を前年度と比較検討する。

3. 国立病院機構附属看護師養成所（北海道東北地区）間の相互評価の実施

4. 学校関係者評価の委員

所属	任期	種別
母体病院 看護部長	2019.10.1～ 2021.3.31	看護管理者
市内の看護専門学校副学校長	2019.10.1～ 2021.3.31	教育に知見のある者
同窓会役員	2019.10.1～ 2021.3.31	卒業生

・2019年度 学校相互評価結果

後日公表予定

●財務諸表等の情報

・財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://nho.hosp.go.jp/files/000071733.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://nho.hosp.go.jp/files/000071733.pdf
財産目録	
事業報告書	https://nho.hosp.go.jp/files/000071733.pdf
監事による監査報告（書）	https://nho.hosp.go.jp/files/000071733.pdf

●授業科目の評価及び単位認定について

北海道医療センター附属札幌看護学校では、以下の学則に則り評価及び単位認定を行っている。

■授業科目の学修成果の評価、単位認定

学則

(授業科目の評価及び単位修得の認定)

第18条 単位修得の認定は、講義、実習等に必要時間の取得状況と当該科目の評価により行う。

2 出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、その科目について評価を受ける資格を失う。

3 授業科目の評価は優(80点以上)、良(70点から79点)、可(60点から69点)及び不可(60点未満)とし、可以上を合格とする。

4 病気その他やむを得ない理由により試験を受けることのできなかつた者又は不合格者の者に対しては、追試験又は再試験を行うことができる。

学則細則

(授業科目の評価及び単位修得の認定)

第3条 学則第18条第1項による単位修得の認定については次のとおりとする。

一 単位修得の認定は次のとおり行う。

イ 授業科目の評価は、講義・演習は試験により行い、臨地実習については実習評価表に基づいて行う。

ロ 基礎看護方法論の単位認定において筆記試験と実技試験がある場合は、それぞれ60点以上を合格とする。

ハ 一つの授業科目の評価を受ける前に、その総時間数の3分の2以上の出席がなければ、その授業科目の評価を受けることができない。但し、やむを得ない理由により授業を欠席した者で、学校長が特に認めた者については、別途協議する。

二 臨地実習の単位認定は、実習科目ごとに評価する。

三 2科目以上の授業科目の単位を修得出来ていない場合には、基礎看護学実習以外の実習を受けることができない。

四 1年次における、基礎看護学実習Ⅰの単位を修得できなかった者については、2年次の基礎看護学実習Ⅱの履修の可否は運営会議にて決定する。

五 基礎看護学実習の単位を修得した者でなければ、他の専門分野の実習を受けることができない。

六 2年次における、看護学実習1クールと2クールの両方の単位を修得できなかった者については、3年次の3クール以降の看護学実習の履修の可否は運営会議にて決定する。

七 試験とは、中間試験及び学科目単位修得認定試験とする。

八 中間試験とは授業実施中随時行う試験をいい、学科目単位修得認定試験とは、学科目ごとに終了後行う試験をいう。

九 単位修得の認定を受けることができなかつた授業科目は再履修しなければ単位修得の認定はできない。

十 不正行為を行った者は、当該年度においてその科目の単位認定を受けることができない。

・2018年度 成績の分布 (1学年)

別紙 客観的な指標の算出方法参照

●卒業認定について

北海道医療センター附属札幌看護学校では、次の能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、専門士の称号を授与している。

1. 看護は生命の尊厳と人間尊重を基盤として成り立つことを理解し、看護観を形成している。
2. 対象の健康や場に応じて、科学的根拠に基づいた問題解決方法がわかる。
3. 豊かな感性を持ち、人間を幅広く理解できる。
4. 自己を理解し、他者を尊重した上で人間関係を深めることができる。
5. 常に探究心を持って看護を追求する姿勢がある。
6. 社会の動きに関心を持ち、自ら継続的に学習できる。
7. 物事を主体的に考え、自立して行動できる。
8. 自己の感情をコントロールし、他者を理解するための洞察力を養うことによって人間関係を形成することができる。
9. 保健医療の場に生じる保健・医療・福祉に関する問題の対処方法を学び、必要に応じ調整的な役割を担う能力を身につけている。

■卒業の認定

学則

(卒業)

第24条 学校長は、第17条に定める授業科目の単位修得の認定を受けた者について、学校運営会議の議を経て、卒業を認定する。

2 学校長は、卒業を認定した者に対し、卒業証書を授与する。

*学則第 17 条に定める授業科目とは、本学校で定めた基礎分野 12 科目、専門基礎分野 19 科目、専門分野 I 14 科目、専門分野 II 30 科目、統合分野 10 科目であり、これらの科目全てにおいて単位修得の認定がされた者が、学校運営会議の議により卒業認定される。

客観的な指標の算出方法

○平成30年度

客観的な指標の算出方法					
履修科目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する（100点満点で点数化）					
学科名	看護	学年	1	学生数	78
成績の分布					
指標の数値	<60	<70	<80	<90	≧90
人数	0	0	13	63	2
下位1/4に該当する人数		19人			
下位1/4に該当する指標の数値		80.8点以下			

科目区分	専門基礎分野	授業科目	関係法規
講師名	橋場美紀（15 時間） 井田昌子（15 時間）	実務経験の有無	有
単位数（時間）	1 単位（30 時間）	開講年次	3 年次 前期
<p>目的： 医療・看護に必要な法律と行政における看護の位置、及び法的役割と責任を学ぶ</p> <p>目標： 1. 法の知識と法令について 2. 法の内容、衛生法、厚生行政の仕組みが理解できる 3. 医事法が理解できる 4. 保健衛生法が理解できる 5. 保健師助産師看護師法が理解できる 6. 社会保険法、福祉法、労働法が理解できる</p>			
回	時間	講義内容	
1 橋場	2	I 法の概念 1 法とは 2 衛生法 3 厚生行政のしくみ	
2 橋場	2	II 医事法（医療法） 1 ①目的・医療提供の理念・定義 ②医療の安全の確保 ③病院等 2 医療関係資格法、保健医療福祉法、医療を支える法	
3 橋場	2	IV 保健衛生法 1 地域保健法、感染症に関する法、食品に関する法	
4 橋場	2	V 薬務法 VI 環境衛生法	
5 橋場	2	VII 社会保険法 VIII 福祉法	
6 橋場	2	IX 労働法と社会基盤整備	
7 橋場	2	X 環境法	
8 井田	2	II 医事法（看護法） 1 保健師助産師看護師法 ・目的、定義、免許、業務、試験、義務、 特定行為に係る法律	
9 井田	2	II 医事法（看護法） 1 保健師助産師看護師法 ・医療過誤、罰則、施行令、施行規則、	

		・保健師助産師看護師学校養成所指定規則、医道審議会
10 井田	2	2 看護師等の人材確保の促進に関する法律 ・届出に関すること Ⅲ 保健衛生法 2 分野別保健法 ①精神保健&精神障害者福祉に関する法律
11 井田	2	Ⅲ 保健衛生法 2 分野別保健法 ②母子保健法 ③母体保護法 ④学校保健安全法 ⑤がん・肝炎・自殺対策基本法
12 井田	2	Ⅲ 保健衛生法 2 分野別保健法 ⑥アルコール健康障害対策基本法 ⑦アレルギー疾患対策基本法・ 難病の患者に対する医療等に関する法律 ⑨歯科口腔保健の推進に関する法律
13 井田	2	Ⅲ 保健衛生法 2 分野別保健法 ⑧ハンセン氏病問題解決促進に関する法律・ 原子爆弾被爆者に対する援護に関する法律
14 井田	2	Ⅳ 看護関係法令 模擬試験
15 橋場 井田	1 1	単位認定試験 筆記試験
講義方法		講義
評価方法		筆記試験 100点
テキスト		1) 医学書院：系統看護学講座 専門基礎分野 「看護関係法規」健康支援と社会保障制度④ 2018年
備考		

科目区分	専門分野 I	授業科目	看護学概論 I
講師名	井田昌子	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(15時間)	開講年次	1年次 前期
<p>目的： 看護全般の主要概念をとらえて、総合保健医療の中で看護の位置づけ、専門性について学ぶ。</p> <p>目標： 1. 看護についての様々な理論や定義が理解できる 2. 看護が果たす役割や専門性を、社会の変化と関連させて理解できる 3. 対象者である人間の健康面から関わる看護について理解できる。</p>			
回	時間	講義内容	
1	2	1. 看護学概論について 2. 看護とは(概念)	1) 看護学概論で何を学ぶのか 2) 看護の前提となる概念 ・看護を図にしてみよう (健康とは、人間とは、環境とは、看護とは) ・講義&グループワーク及びまとめ報告
2	2	3. 看護理論	1) 看護哲学(フローレンス・ナイチンゲール、ヴァージニア・ヘンダーソン) 紹介講義
3	2	3. 看護理論	1) 看護哲学(ウィーデンバック) 2) 概念モデル(オレム・ロイ) 3) 理論・中範囲理論(ペプロウ・トラベルビー等) 講義
4	2	3. 看護理論 (看護の役割と機能)	1) 看護の定義 2) ケア、ケアリング (ホール・ベナー・レイニンガー・ワトソン他) 講義
5	2	4. 健康と看護	1) 健康と看護 2) 国際生活機能分類 3) 健康に関する統計指標 講義
6	2	5. 看護の機能と役割	1) 看護サービスとチーム医療 2) 看護活動の場 *レポート課題(看護覚え書を読んで)700字以上800字以内
7	2	5. 看護の役割と機能	事例を読んでグループワーク・発表

8	1	単位認定試験	筆記試験
講義方法	(講義 13 時間, 演習 17 時間)		
評価方法	①『看護覚え書を読んで』(ナイチンゲールの言葉を引用して自分の看護に対する考えを述べる)(800 字以内) 満点 : 10 点 ② 試験 (筆記) 満点 : 90 点		
テキスト	医学書院 : 系統看護学講座 基礎看護学 看護学概論 茂野香 おる他 2018 年		
備考			

科目区分	専門分野 I	授業科目	基礎看護方法論Ⅲ (運動・休息) (バイタルサイン)
講師名	菅原 明栄	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次 前期
<p>目的： 身体の生理的変化の観察と評価に関すること、循環動態に影響を及ぼす体位と活動に関連する看護の基礎知識と技術・態度を学ぶ。</p> <p>目標： 1. 日常生活活動全般の根幹にかかわる、運動・休息の意義が理解できる 2. ボディメカニクスを活用し、対象者と看護者のからだを動かすことの原理原則が理解できる 3. 体位変換や体位保持、移動・移送について、安全・安楽な方法を習得できる 4. 自然な生体リズムをいかして、睡眠習慣を整える方法を理解できる 5. バイタルサインの観察の意義を理解できる 6. バイタルサインの基礎知識を理解できる 7. バイタルサインを正しく測定する技術を習得できる 8. バイタルサインを総合的にアセスメントできる</p>			
回	時間	講義内容	
1	2	1. 睡眠・休息の援助 2. 基本的活動の基礎知識	1) 睡眠・休息の基礎知識 2) 睡眠・休息の援助 1) よい姿勢 2) 基本体位
2	2	1. 体位変換 2. 体位保持 (ポジショニング)	1) ボディメカニクス技術の基本 2) 援助の基礎知識 3) 体位変換の援助 1) 援助の基礎知識 2) 体位保持の援助
3	2 演習	1. 体位変換の援助	1) ボディメカニクスの実際 2) 体位変換
4	2 演習	1. 体位保持の援助	1) 体位保持 (ポジショニング)
5	2	1. 歩行・移乗・移送 2. 事故防止	1) 援助の基礎知識 2) 歩行・移乗・移送の援助 1) 転倒・転落の起こりやすい状況と対策
6. 7	4 演習	1. 移動・移送の援助	1) 杖・車いす・ストレッチャーを使用した移動・移送の援助
8	2	1. バイタルサインの観察の意義	1) バイタルサインの定義 2) バイタルサイン観察の意義

		2. 体温	1) 体温の基礎知識 2) 体温の変動要因、正常・異常 3) 体温の測定法および留意点
9	2	1. 脈拍 2. 呼吸	1) 脈拍の基礎知識 2) 脈拍の変動要因、正常・異常 3) 脈拍の測定法および留意点 1) 呼吸の基礎知識 2) 呼吸の変動要因、正常・異常 3) 呼吸の測定法および留意点
10	2 演習	1. バイタルサインの測定	1) 体温・脈拍・呼吸の測定 2) 体温・呼吸・脈拍の変動要因下での測定
11	2	1. 血圧 2. 意識状態	1) 血圧の基礎知識 2) 血圧の変動要因、正常・異常 1) 意識に関する基礎知識 2) 意識レベルの評価方法
12	2	1. 血圧計の取り扱い 2. 血圧測定	1) 血圧計の種類 2) 血圧計の構造と取り扱い方法 3) 血圧の測定法および留意点
13	2 演習	1. バイタルサインの測定	1) 血圧の測定 2) 血圧の変動要因下での測定
14	2 演習	1. バイタルサインの測定	1) 一連のバイタルサインを測定し、観察、アセスメント、記録する
	1	単位認定試験	筆記試験
	1	単位認定試験	実技試験
講義方法	講義、および動画視聴 演習		
評価方法	単位認定試験 筆記試験 実技試験		
テキスト	医学書院：茂野香おる. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ. 2018.		
備考			

科目区分	専門分野 I	授業科目	基礎看護方法論Ⅶ (罨法・包帯法・感染予防・吸引・吸入)
講師名	山田淳子	実務経験の有 無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次 後期
<p>目的: 感染に関する基礎的な知識と診療補助技術である無菌操作・包帯法・罨法・吸入、吸引に関連する知識・技術・態度を学ぶ</p> <p>目標: 1) 苦痛の緩和、安楽確保の技術が理解することができる 2) 感染対策に関する基礎的な知識を理解し、感染予防策を実践できる 3) 無菌操作が理解することができる 4) 吸入、吸引に関する基礎的な知識を理解することができる</p>			
回	時間	講義内容	
1	2	安楽確保の技術	罨法とは 罨法の作成方法 罨法実施中の観察
2	2	創傷管理の基礎知識①	包帯法とは 包帯法の基礎知識 包帯法実施中の観察
3	2 演習	罨法・包帯法の実際	湯たんぽ・氷枕の作成 三角巾・巻軸包帯を用いた包帯法
4	2	感染防止・標準予防策の基礎知識	感染とは 感染予防策の基礎
5	2 演習	標準予防策の実際	手指衛生・個人防護具の取り扱い
6	2	感染経路別予防策の基礎知識 滅菌物の取り扱いの基礎知識	感染経路別予防策とは 滅菌物の取り扱い
7	2 演習	滅菌物の取り扱いの実際	滅菌物ガーゼ、滅菌鑷子、滅菌手袋の取り扱い
8	2	感染性廃棄物の基礎知識 創傷管理の基礎知識②	感染性廃棄物とは 感染性廃棄物の管理 創傷処置とは
9,10	4 演習	創傷処置の実際	創傷処置、ガーゼ交換 創傷処置の介助
11	2	吸入の基礎知識	吸入とは 酸素療法、ネブライザー吸入

12	2	吸引の基礎知識	吸引とは 口腔内吸引、気管内吸引
13, 14	4 演習	吸引・吸入の実際	酸素吸入療法 ネブライザー吸入 口腔内・気管内吸引、低圧持続吸引器
	1	単位認定試験	実技試験
	1	単位認定試験	筆記試験
講義方法		(講義 14 時間, 演習 14 時間)	
評価方法		単位認定試験 実技試験 100 点 筆記試験 100 点	
テキスト		1) 医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅰ，基礎看護技術Ⅱ基礎看護学③ 第17版第3刷 2) メディックメディア：看護がみえる①基礎看護技術，第1版第1刷 3) メディックメディア：看護がみえる②臨床看護技術，第1版第1刷	
備考		事前学習：各授業前に、テキスト及び演習要項を一読し、予習する リフレクション：各授業後に、自己評価し自己の課題を明確にする	

科目区分	専門分野 I	授業科目	基礎看護方法論Ⅷ (与薬)
講師名	矢口由里子	実務経験の有無	有
単位数 (時間)	1 単位 (30 時間)	開講年次	2 年次 前期
目的： 診療補助技術である与薬に関連する知識・技術・態度を学ぶ 目標： 1) 安全な与薬のための 6R 確認ができる 2) 与薬方法が理解できる 3) 輸液ポンプ、シリンジポンプの操作方法が理解できる			
回	時間	講義内容	
1	2	与薬の基礎知識①	与薬とは 薬剤に関する法律、薬剤の管理 看護師の役割・与薬実施上の責任 6つの Right、薬物の作用と影響因子 与薬経路と体内循環、誤薬防止
2	2	与薬の基礎知識② 与薬の方法	経口与薬、吸入、点眼、点鼻、点耳、経皮的与薬、直腸内与薬
3	2	注射技術の基礎知識	注射方法の種類、注射筒と注射針について、必要物品と準備、針刺し防止策と針刺しの対応
4	2	皮下・筋肉・皮内注射	適応・注射選定部位の選択・実施方法・留意点
5	2 演習	注射技術の実際①	注射器に薬剤を準備する
6	2 演習	皮下・筋肉注射	皮下・筋肉の部位を正しく選定し、安全に実施する
7	2 演習	皮内注射 直腸内与薬	皮内注射の部位を正しく選定し、安全に実施する 安全に直腸内与薬を実施する
8	2	静脈注射	適応・注射選定部位の選択・実施方法・留意点
9, 10	4 演習	注射技術の実際②	薬剤の準備、血管の選定および安全に静脈内注射を実施する
11	2	点滴静脈内注射 中心静脈内栄養、輸血 輸液・シリンジポンプ	適応・注射選定部位の選択・実施方法・留意点 (管理方法) 適応・使用方法・留意点 (管理方法)
12, 13	4 演習	点滴静脈内注射の実際	血管の選定および安全に点滴静脈内注射を実施する

14	2 演習	輸液・シリンジポンプの実際	機器を操作し、正しい使用方法を理解する
	1	単位認定試験	実技試験
	1	単位認定試験	筆記試験
講義方法		(講義 13 時間, 演習 17 時間)	
評価方法		単位認定試験 実技試験 100 点 筆記試験 100 点	
テキスト		1) 医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅰ，基礎看護技術Ⅱ基礎看護学③ 第17版第2刷 2) メディックメディア：看護技術がみえる①臨床看護技術，第1版第4刷 3) メディックメディア：看護技術がみえる②臨床看護技術，第1版第7刷	
備考		事前学習：各講義前に、教科書第9章の講義対象範囲を一読し、動画がある場合は視聴しておく	

科目区分	専門分野 I	授業科目	看護研究
講師名	水野智美 菅原明栄	実務経験の有無	有
単位数 (時間)	1 単位 (30 時間)	開講年次	3 年次 前期～後期
<p>目的： 看護実践における研究の意義、方法が理解できる。</p> <p>目標： 1) 看護研究とは何か理解できる 2) 看護研究の目的が理解できる 3) 看護研究の方法が理解できる 4) ケーススタディを論文としてまとめることができる</p>			
回	時間	講義内容	
1 水野	2	看護研究とは	研究の目的 意義 文献検索 (演習)
2 水野	2	看護研究プロセス 研究計画書とは	研究における倫理的配慮 研究計画書の書き方
3 水野	2	研究のアプローチ方法	事例研究
4 水野	2	研究のアプローチ方法	量研究、質研究
5 水野	2	文献クリティーク 1	文献読み 1 量的研究
6 水野	2	文献クリティーク 2	文献読み 2 質的研究
7 水野	2	研究論文とは	研究論文の書き方
8 菅原	2	ケーススタディの取り組み 方	ケーススタディの方法 文献検索
9～ 14 菅原	13	ケーススタディ執筆	論文書式について 論文執筆について ケーススタディの発表について
15 水野	1	単位認定試験	
講義方法	講義、情報処理室での演習		
評価方法	単位認定試験 100 点中 59 点分の筆記試験 ケーススタディの期限内の提出 41 点分		
テキスト	系統看護額講座 別巻 看護研究:医学書院 2019		
備考			

科目区分	専門分野II	授業科目	成人看護概論
講師名	藪下めぐみ 山口美千代	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次 前期～後期
<p>目的: 1. 成人期にある対象を総合的に理解し、成人各期の健康問題の特徴と看護の役割を学ぶ</p> <p>2. 成人保健の意義を理解し、成人各期の健康の保持・増進について学ぶ</p> <p>目標: 1) 成人期にある対象を総合的に理解できる</p> <p>2) 成人各期の健康問題の特徴が理解できる</p> <p>3) 成人各期にある対象への看護の役割が理解できる</p> <p>4) 成人保健の保持・増進が理解できる</p> <p>5) 成人期の治療過程にある対象への看護が理解できる</p>			
回	時間	講義内容	
1 2	4	成人と生活	<ul style="list-style-type: none"> ・対象の理解 ・対象の生活
3	2	生活と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・成人を取り巻く環境と生活からみた健康 ・生活と健康をまもりはぐくむシステム
4 5	4	成人への看護アプローチの基本	<ul style="list-style-type: none"> ・生活のなかで健康行動を生み、はぐくむ援助 ・健康問題を持つ大人と看護師の人間関係 ・人々の集団における調和や変化を促す看護アプローチ ・チームアプローチ ・看護におけるマネジメント ・看護実践における倫理的判断 ・意思決定支援
6	2	ヘルスプロモーションと看護	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルスプロモーションと看護 ・ヘルスプロモーションを促進する看護の場と活動
7	2	健康をおびやかす要因と看護	<ul style="list-style-type: none"> ・健康バランスの構成要素 ・健康バランスに影響を及ぼす要因 ・生活行動がもたらす健康問題とその予防
8	2	健康生活の急激な破綻から回復を促す看護	<ul style="list-style-type: none"> ・健康の急激な破綻 ・急性期にある人の看護 ・救急医療を必要とする人々
9	2	慢性病との共存を支える看護	<ul style="list-style-type: none"> ・慢性病患者の理解 ・慢性病との共存を支える看護実践

		障害がある人の生活とリハビリテーション 学習者である患者への看護技術	<ul style="list-style-type: none"> ・障害のある人の生活とリハビリテーション ・障害がある人とその生活を支援する看護 ・エンパワーメントエデュケーション ・セルフマネージメントを推進する看護技術
10	2	人生の最後のときを支える看護	<ul style="list-style-type: none"> ・人生最後のときにおける医療の現状 ・人生最後のときを過ごしている人の理解 ・人生最後の時を支える看護
11	2	治療過程にある患者への看護技術	<ul style="list-style-type: none"> ・治療による身体侵襲からの回復促進のための看護技術 ・安全を援助する看護技術 ・日常生活機能の保護・医師と社会復帰に向けた看護技術 ・ボディイメージの変化に対する看護技術 ・その人らしい日常生活再構築のための看護技術
12	2	症状マネジメントにおける看護技術	<ul style="list-style-type: none"> ・症状マネジメントと看護 ・症状マネジメントと看護実践モデル ・症状マネジメントモデルから導かれた看護アプローチ
13	2	療養の場を移行する人々への看護技術 新たな治療法、先進医療と看護	<ul style="list-style-type: none"> ・療養の場の移行支援とはどのような活動か ・療養の場の移行支援が必要とされる理由 ・療養の場の移行支援の具体的方法 ・新たな治療法・医療処置の開発・普及 ・新たな治療法・医療処置を受ける患者・家族の看護
14 山口	2	がん看護	<ul style="list-style-type: none"> ・がん看護の役割（認定看護師） 緩和ケア チームアプローチ
15	2	単位認定試験	
講義方法		講義	
評価方法		単位認定試験 筆記試験 100点	
テキスト		医学書院：成人看護学① 成人看護学総論， 2018.	
備考			

科目区分	専門分野II	授業科目	老年看護概論
講師名	水野智美	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次 前期～後期
<p>目的： 老年期にある対象の特徴をとらえ、老年看護の機能と役割を理解する。</p> <p>目標： 1) 老年期の身体的・精神的・社会的変化が理解できる 2) 高齢者のヘルスアセスメントが理解できる 3) 高齢社会における社会保障が理解できる 4) 高齢者のヘルスプロモーションがわかる 5) 高齢社会のリスクマネジメントがわかる</p>			
回	時間	講義内容	
1	2	老いるということ, 老いを生きるということ	老いとは何か 生きた時代の理解
2	2		老年期の身体的変化
3	2		老年期の気持ちの変化
4	2		老年期の生活の変化
5	2	老年看護の成り立ち	老年看護の成り立ち 老年看護における論と・概念の活用
6	2		老年看護の役割 老年看護に携わる者の責務
7	2	高齢者のヘルスアセスメント	ヘルスアセスメントの基本
8	2	超高齢社会と社会保障	超高齢社会の統計的輪郭 高齢社会における保健医療福祉の動向①
9	2		高齢社会における保健医療福祉の動向② 社会参加
10	2		高齢者の権利擁護 セクシャリティ
11	2	生活・療養の場における看護	高齢者とヘルスプロモーション
12	2 2		保健医療福祉施設および居住施設における看護 治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護

13	2		多職種連携実践による活動
14	2	高齢者のリスクマネジメント	高齢者の医療安全 高齢者の救命・災害
15	2	単位認定試験	筆記試験
講義方法		講義 個人ワーク 発表	
評価方法		単位認定試験 筆記試験 74点 提出物・参加状況 26点	
テキスト		医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学(第9版)	
備考			

科目区分	統合分野	授業科目	看護管理
講師名	井田昌子・ 中村一美澤田真樹・余田睦美	実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(15時間)	開講年次	3年次 前期～後期
<p>目的： 医療チームの一員として看護マネジメントできる実践能力を習得する。</p> <p>1. 看護マネジメントの基礎がわかる。</p> <p>2. 医療チーム、看護組織における看護師の役割が理解できる。</p> <p>3. 国際社会の現状と国際看護活動の実際を理解できる。</p>			
回	時間	講義内容	
1 井田	2	1. 看護管理とは(看護とマネジメント) 用語解説	
2 ～ 4 澤田 余田 中村	6	2. 看護ケアマネジメント テキスト第2章 3. 看護職のキャリアマネジメント テキスト第3章 4. 看護サービスマネジメント テキスト第4章	
5 井田	2	5. 看護管理とは(看護とマネジメント) *看護管理を考える(医療安全の側面から)	
6 井田	2	6. 看護管理の今日的課題 ①医療機関の連携 ②医療サービスと情報開示	
7 井田	2	7. 国際社会の現状と国際看護活動の実際 ①看護における国際協力 ②国際看護活動の実際	
8	2	単位認定試験	筆記試験
講義方法	講義		
評価方法	単位認定試験 筆記試験100点		
テキスト	医学書院：系統看護学講座 統合分野 「看護管理」看護の統合と実践Ⅰ 上泉和子他 2018年		
備考			

進度表 (月別)

区分	教育内容	科目	単位	時間数	1 年 生												2 年 生												3 年 生																																													
					4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3																																		
基礎分野	科学的思考	情報科学	2	30	→→→→→																																																																					
		生活科学	1	30	→→→→→																																																																					
		国語表現法	1	30	→→→→→																																																																					
	人間と生活・社会の理解	教育学	1	30	→→→→→												→→→→→																																																									
		心理学	1	30	→→→→→																																																																					
		人間関係論	1	30	→→→→→												→→→→→																																																									
		哲学(選択)	1	30													→→→→→																																																									
		倫理学(選択)	1	30													→→→→→																																																									
		英語 I	1	30	→→→→→																																																																					
		英語 II	1	30	→→→→→																																																																					
		英語 III	1	30													→→→→→																																																									
		保健体育	1	30	→→→→→																																																																					
	社会学(選択)	1	30													→→→→→																																																										
行動科学(選択)	1	30													→→→→→																																																											
小計	13	360																																																																								
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学総論	1	15	→→→																																																																					
		解剖生理学 I	1	30	→→→→→																																																																					
		解剖生理学 II	1	30	→→→→→																																																																					
		解剖生理学 III	1	30	→→→→→																																																																					
		生化学	1	30	→→→→→																																																																					
		栄養学	1	30	→→→→→																																																																					
		人間工学	1	15	→→→																																																																					
	疾病の成り立ちと治療の成り立ち	病理学	1	30	→→→→→																																																																					
		病態治療論 I	1	30	→→→→→																																																																					
		病態治療論 II	1	30	→→→→→																																																																					
		病態治療論 III	1	30	→→→→→																																																																					
		病態治療論 IV	1	30	→→→→→																																																																					
		微生物学	1	30	→→→→→																																																																					
	健康支援と社会保険制度	薬理学	2	30	→→→→→																																																																					
		公衆衛生学	1	30	→→→→→												→→→→→																																																									
		社会福祉	2	30	→→→→→												→→→→→																																																									
		関係法規	1	30													→→→→→												→→→→→																																													
		保健医療論	1	15	→→→																								→→→→→																																													
		生命倫理	1	15													→→→																																																									
小計	21	510																																																																								
専門分野 I	基礎看護学	看護学概論 I	1	15	→→→																																																																					
		看護学概論 II	1	30	→→→→→																																																																					
		基礎看護方法論 I (環境)	1	30	→→→→→																																																																					
		基礎看護方法論 II (コミュニケーション)	1	30	→→→→→																																																																					
		基礎看護方法論 III (NURSING)	1	30	→→→→→																																																																					
		基礎看護方法論 IV (清潔)	1	30	→→→→→																																																																					
		基礎看護方法論 V (食事)	1	30	→→→→→																																																																					
		基礎看護方法論 VI (看護過程)	1	30	→→→→→																																																																					
		基礎看護方法論 VII (感染)	1	30	→→→→→																																																																					
		基礎看護方法論 VIII (作業)	1	30	→→→→→																																																																					
	基礎看護方法論 IX (NURSING)	1	30	→→→→→												→→→→→																																																										
	看護研究	1	30													→→→→→												→→→→→																																														
	臨床実習	基礎看護学実習 I	1	45													→→→→→												→→→→→																																													
		基礎看護学実習 II	2	90													→→→→→												→→→→→																																													
	小計	15	480																																																																							
	専門分野 II	成人看護学	成人看護概論	1	30	→→→→→																																																																				
			成人看護方法論 I	1	30	→→→→→												→→→→→																																																								
成人看護方法論 II			1	30	→→→→→												→→→→→																																																									
成人看護方法論 III			1	30	→→→→→												→→→→→																																																									
成人看護方法論 IV			1	30	→→→→→												→→→→→																																																									
老年看護学		成人看護方法論 V	1	30	→→→→→												→→→→→																																																									
		老年看護概論	1	30	→→→→→																																																																					
		老年看護方法論 I	1	30	→→→→→												→→→→→																																																									
小児看護学		老年看護方法論 II	1	15	→→→												→→→→→												→→→→→																																													
		小児看護概論 I	1	30	→→→→→																																																																					
		小児看護方法論 I	1	30	→→→→→												→→→→→																																																									
母性看護学		小児看護方法論 II	1	30	→→→→→												→→→→→																																																									
		母性看護概論	1	30	→→→→→																																																																					
		母性看護方法論 I	1	15	→→→												→→→→→												→→→→→																																													
精神看護学		母性看護方法論 II	1	30	→→→→→												→→→→→																																																									
		母性看護方法論 III	1	30	→→→→→												→→→→→																																																									
		母性看護方法論 III	1	30	→→→→→												→→→→→																																																									
臨床実習		精神看護概論 I	1	15	→→→												→→→→→																																																									
		精神看護概論 II	1	30	→→→→→												→→→→→																																																									
	精神看護方法論 I	1	30	→→→→→												→→→→→																																																										
	精神看護方法論 II	1	30	→→→→→												→→→→→																																																										
	成人看護学実習 I	2	90													→→→→→												→→→→→																																														
	成人看護学実習 II	2	90													→→→→→												→→→→→																																														
	成人看護学実習 III	2	90													→→→→→												→→→→→																																														
小計	38	1320																																																																								
統合分野	在宅看護論	在宅看護概論	1	30	→→→→→																																																																					
		在宅看護方法論 I	1	30	→→→→→												→→→→→																																																									
		在宅看護方法論 II	1	15	→→→												→→→→→																																																									
		在宅看護方法論 III	1	30	→→→→→												→→→→→																																																									
	統合科目	看護管理	1	15													→→→→→												→→→→→																																													
		医療安全	1	15													→→→→→																																																									
		災害看護	1	15													→→→→→																																																									
	臨床実習	統合看護技術	1	30													→→→→→												→→→→→																																													
		在宅看護論実習	2	90													→→→→→												→→→→→																																													
		統合実習	2	90													→→→→→												→→→→→																																													
小計	12	360																																																																								
総合計	99	3030	42 単位												1140 時間												37 単位												1065 時間												20 単位												825 時間											